

第8節 駅周辺整備を推進し公共交通対策を充実する

■現状と課題（前期基本計画までの成果を踏まえて）

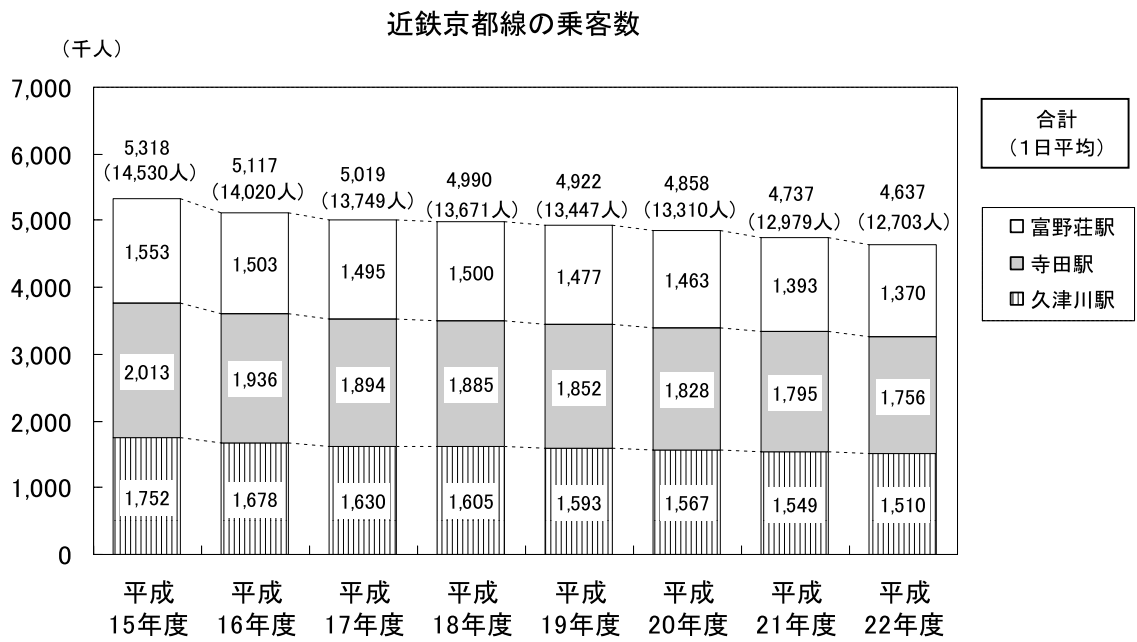
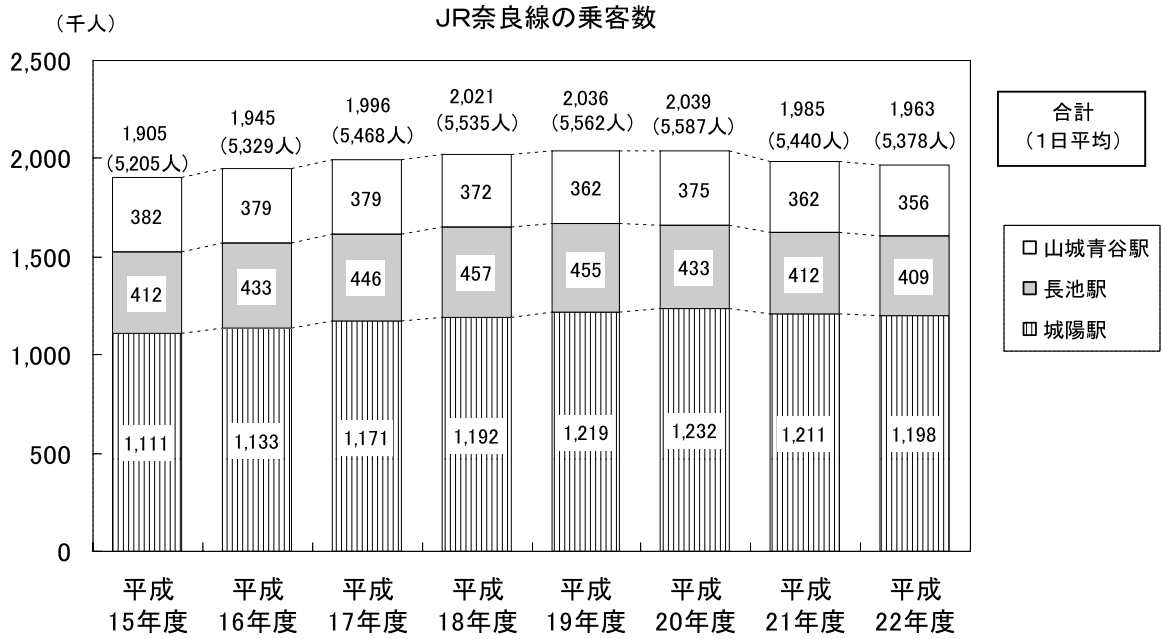
駅周辺においては、文化や交流、買い物などの諸機能を拡充し、特色ある市街地の形成を図る必要があります。シビックゾーンとして位置付けられている寺田駅周辺については、平成18年4月に「寺田駅前まちづくり協議会」からまちづくり構想の提言を受け、市では平成20年5月に「寺田駅周辺整備基本計画（案）」を作成しました。今後は、整備手法や整備内容などについて京都府や鉄道事業者である近畿日本鉄道株式会社との協議を踏まえ、寺田駅周辺整備の実現に向けて検討を進めていく必要があります。

長池駅周辺については、都市計画道路長池駅木津川右岸公園線と駅北側の駅前広場および南北を連絡する自由通路、駅舎の橋上化整備工事に取り組んでいますが、今後は、地域の商業者、地域住民で構成される「（仮称）長池駅前まちづくり協議会」と協働して、長池駅周辺の都市基盤施設を始めとする地域資源を活用した地域の活性化を進めるとともに、国道24号から駅へのアクセス道路等、駅周辺整備の具体化に向けた取り組みが必要です。

また、山城青谷駅周辺については、平成20年5月に本市で作成した「JR山城青谷駅周辺整備基本調査報告書」を踏まえ、地元7自治会の代表者から構成される「山城青谷駅周辺整備構想検討会」の検討内容を基に平成23年6月に「山城青谷駅周辺整備構想」を策定しました。今後は、構想内容を踏まえ、「山城青谷駅周辺整備基本計画」の策定を行い、国道307号からの新規の府道バイパス整備と合わせた整備内容や整備手法などについて検討を進めていく必要があります。

一方、公共交通については、JR奈良線において、第1期複線化事業の完了などにより全体的には利便性の向上が図られていますが、城陽駅と長池駅・山城青谷駅の間で利便性の格差が生じています。また、本市において、特に若年層を中心として、住み続けたいと思える魅力あるまちづくりを進めていくためには、JR奈良線の第2期複線化事業や近鉄京都線における寺田駅への急行列車の停車等による、利便性の向上が求められています。

路線バスについては、平成19年11月に路線の愛称を全国からの公募で「城陽さんさんバス」と決定し、市民の身近な足として、バスの運行を行っています。市民の足として定着してきていますが、今後もバスの利用促進を図る必要があります。



(資料) 西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社

基本方針

- 地域住民との協働による寺田駅周辺、長池駅周辺および山城青谷駅周辺の整備により、地域の顔となる特色ある市街地の形成をめざします。
- 市内各駅においても駅に通じる府道の整備を要請し、駅利用者の安全性や利便性を向上させ、駅周辺の良好な交通環境の形成をめざします。
- JR奈良線および近鉄京都線の便数の増加や高速化などにより鉄道利用の利便性の向上をめざします。

○高齢者や障がいのある方が路線バスなどの公共交通を利用しやすくなることにより、健康で生きがいの持てる生活の実現と環境にやさしい交通の実現をめざします。

■まちづくり指標

まちづくり指標名	説明	単位	現状値	5年後の目標	めざすべき目標
			(平成22年度)	(平成28年度)	
鉄道を手軽に利用できると感じている市民の割合	まちづくり市民アンケート結果	%	70.6	90	100
路線バスを手軽に利用できると感じている市民の割合（市内の3路線）	まちづくり市民アンケート結果	%	28.3	30	100
路線バス利用者数（市内の3路線）	年間総利用者数	人	138,857	145,588	↑

■主な施策の展開

（１）駅周辺整備の実施

寺田駅においては、寺田駅周辺整備事業について地域住民と協働で整備手法などを決定し、その事業化を図ります。長池駅においては、駅南北を結ぶ自由通路の整備を行うとともに国道24号から駅南側までの道路整備に取り組み、地域の中心地区として整備し、駅周辺地域の活性化に努めます。また、山城青谷駅においては、国道307号からの新規の府道バイパス整備と合わせた駅周辺整備に取り組みます。

また、市内各駅においても駅に通じる府道の整備を要請し、駅利用者の安全性や利便性を向上させ、駅周辺の良好な交通環境の形成をめざします。

（２）鉄道利用者の利便性の向上

JR奈良線の第2期複線化・高速化工事や寺田駅への急行停車の実現により、市民の鉄道利用の利便性の向上をめざします。

（３）交通弱者の移手段の確保

高齢者などの交通弱者の移手段として路線バスの利便性を高め、その利用促進に努めます。

■市民まちづくりワークショップからの提言（平成18年）

市民の役割（例示）

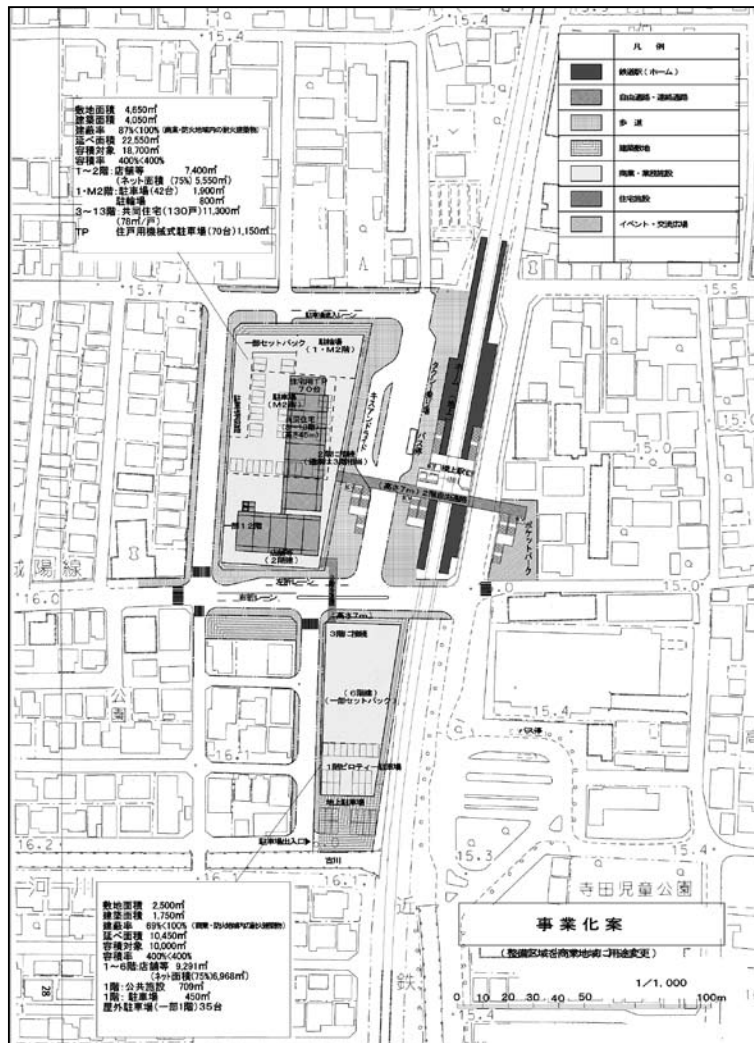
- バスが利便性の高い移動手段となるよう、路線や運行本数などを住民が一体となって考える。
- 環境に優しい公共交通の役割を理解し、積極的に利用する。
- 事業者は、路線の運行、状況、配置をわかりやすく情報提供する。

■PR施策

○寺田駅周辺整備推進事業

地元住民が主体となって寺田駅前まちづくり協議会が設立され、市とまちづくり協議会が協働でまちづくりに取り組んでいます。まちづくり協議会では、まちづくりの啓発に取り組まれる一方で、「寺田駅周辺まちづくり構想の提言」を作成され、平成18年4月に市に対し提出されました。市はこれを踏まえ、平成20年5月に作成した「寺田駅周辺整備基本計画（案）」に基づき、関係機関協議等、事業の実現に向けて取り組みを進めています。

基本計画 第2章



【寺田駅周辺整備基本計画（案）】

○長池駅周辺整備事業

長池駅周辺整備事業は、平成21年3月に策定した都市再生整備計画(長池駅周辺地区)に基づき取り組みを進めており、平成24年6月には長池駅の自由通路および橋上駅舎が供用開始されます。これにより、駅の南北が一体となるとともに、市民の安全性と利便性が向上し、木津川右岸運動公園(仮称)や、東部丘陵地の玄関口としての機能を備えることとなります。

今後は、長池駅周辺の地域活性化に向けた取り組みを(仮称)長池駅前まちづくり協議会と進めていきます。



【長池駅自由通路・橋上駅舎】

○山城青谷駅周辺整備構想

近年の山城青谷駅周辺については、多賀バイパスの開通や京都府による府道上狛城陽線バイパスルートの検討等により交通環境が大きく変わろうとしていることから、この社会情勢を踏まえた山城青谷駅周辺の整備構想の策定に取り組みました。

整備構想の策定にあたっては、地元住民との協働として、地元自治会の代表者による「山城青谷駅周辺整備構想検討会」を設置し、その検討結果を踏まえ、JR奈良線西側の新規府道バイパスの整備、橋上駅および駅前広場等の整備を内容とした「山城青谷駅周辺整備構想」を平成23年6月に策定しました。



【山城青谷駅周辺整備構想検討会の様子】

○* JR奈良線の複線化

平成24年5月に、JR奈良線の第2期複線化事業として、「新田駅～城陽駅」間を含む3区間で計14kmが複線化されることが決定されました。

平成34年度完了の計画で着手されており、完了すれば「京都駅～城陽駅」間が全て複線区間となり、電車の高速化など利便性が向上することになります。

引き続き、城陽駅以南全線複線化に向けて取り組みを進めます。

*平成24年3月の計画策定以降における、状況の変化に伴い追記したものです。